

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(仙北市)

1 市の概要(人口 24,480 人)

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0 園	0 園	5 園	3 園	0 園	0 園	6 校

その他:事業所内2 家庭的保育事業1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関わりが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。
- (2) 幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

「幼児教育の推進体制構築事業」を令和元年度から3年間実施し、当市の幼児教育における課題解決と内容充実化を図ってきたが、さらなる事業推進を図る。

社会や保育の変革に対応し、教育・保育の質の向上、教職員の資質向上、園内リーダーの養成等は重要である。そのためには、教育・保育アドバイザーを継続配置することにより、市としての幼児教育推進体制を機能させ、本市の抱える教育課題の解決に向けて一層の指導や支援を行う。

また、当市の教育理念に基づき、未来に向けた人材育成するための教育を目標とした「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解に向け、教育・保育現場の意見を取り入れた取組の充実を図る。

主な内容(3年間)

- 1 教育・保育アドバイザーによる園の支援(園内研修、保育実践)
 - ・定期的な訪問による園内研修支援(研修方法、研修内容等への助言)
 - ・保育支援(指導計画作成、保育の振り返り等への助言)
 - ・園、個人からの相談への対応
- 2 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり
 - ・園や保育者の課題に応じた研修会の実施
 - ・ファシリテーター研修会の実施(園内研修の充実に向けて)
 - ・公開保育、実技研修(地域で学び合う体制作り)
 - ・保育補助者研修会開催
 - ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修(会議)の実施
 - ・保育士以外の職員向けの研修の実施
- 3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修(取組)の充実
 - ・教育委員会と子育て推進課との連携体制の構築(幼小接続の連携体制の強化)
 - ・教育委員学校訪問に園長等も同行できるように調整を図る(継続)
 - ・学区(園・小学校)の情報交換時に参加
 - ・幼小合同研修会の実施

4 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成	
・ 県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加 ・ 南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修情報共有 ・ 指導主事及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る ・ 幼小連携に関する研修会（公開研究会を開催） ・ 園・小学校の指導主事訪問（保育参観・授業参観後の協議に参加）	
年度別重点	
令和4年度	園の課題を明確にしながらアドバイスや援助を行い育みたい資質能力を視点にした保育実践の支援を目指す。
令和5年度	就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組みの強化に努める。
令和6年度	育みたい資質能力を視点にスタートカリキュラム、子どもの姿、育ちを協議できる体制の構築に努める。

令和4年度の具体

的

令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む

- ・ 幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む
- ・ 小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化
- ・ 副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとして育成を図る（教育・保育の質と専門性の向上）

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

（幼小連携の強化）

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

実施内容及び実施状況（中間）

（1）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）

- ・ 教育委員会と子育て推進課の連携体制の構築（継続）

① 教育委員会学校訪問に同行する。

R4.7月1日（金）	西明寺小学校	教育委員会・教育委員・園長・アドバイザー	14名
	神代小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
	白岩小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
R4.7月4日（月）	桧木内小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
	生保内小学校	教育委員会・教育委員・主査教諭・アドバイザー	12名
R4.7月8日（金）	角館小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名

○「異年齢活動の中で学年の発達や育ちをどのように保障していくか」「少人数クラスは集団としての育ちをどのように経験させていくか」等が園の課題であるが、小学校では複式学級での授業体制の課題になり、少子化の現状を捉えた体制作りの必要性を実感した。

○園長等の感想から隣接する小学校の連携体制の中で授業や保育を参観し合うだけでなく、

話し合いの時間を持つことが大事であるという意識が高まったことを感じた。

② 地区別幼小連絡会

- | | |
|-------------|--|
| R4.5月11日(水) | 会場（仙北市立角館小学校）
角館小学校4名・角館こども園3名・角館西保育園2名
中川保育園2名・アドバイザー
授業参観・年間計画（交流）の確認、日程調整等 |
| R4.5月16日(月) | 会場（仙北市立西明寺小学校）
西明寺小学校3名・にこにここども園2名・アドバイザー
授業参観・保育参観・年間計画（交流）について等 |
| R4.6月15日(水) | 会場（はなさき仙北神代こども園）
神代小学校3名・神代こども園7名・アドバイザー
情報交換・年間計画について・日程調整等 |
| | |
| R5.2月27日(月) | 会場（仙北市立西明寺小学校）
西明寺小学校2名・にこにここども園4名・アドバイザー
令和4年度の振り返り（成果と課題を話し合う） |
| R5.3月10日(金) | 会場（だしのこ園）
生保内小学校3名・だしのこ園4名・アドバイザー
令和4年度の振り返り
令和5年度に向けて～育ちと学びについて～ |
| R5.3月16日(木) | 会場（角館小学校）
角館小学校3名・角館こども園1名・角館西保育園1名
中川保育園1名・アドバイザー
令和4年度の振り返り（成果と課題を話し合う） |
| R5.3月23日(木) | 会場（仙北市立神代小学校）
神代小学校3名・神代こども園4名・アドバイザー |
| R5.3月23日(木) | 会場（にこにここども園）
西明寺小学校1名・にこにここども園3名・アドバイザー |

○学区ごとに1年間の幼小の計画についての振り返りが行われ、成果と課題を出し合うことで次年度に向けての園と小学校の活動内容や子どもの姿を確認しあう有効な時間になっている。また、子どもの情報交換だけでなく、何のためにそのことを行うのか「ねらいを考えて実施しましょう」という声もあり、双方の理解をしながら園小のつながりを大事にしたいという気持ちが感じられた。

（2）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育・保育アドバイザーによる園への支援（園内研修、保育実践）
- ・定期的な園内研修支援（研修の取り組み、事前の研修内容を確認する）
- ・各園の課題を明確にし、課題解決に向けての園訪問を継続する
- ・保育実践の見直し（指導計画等）、保育参観からの保育の振り返りの助言を行う
- ・新規採用保育者、保育補助との個別面談・支援の構築を図る
- ・副園長、ミドルリーダーの育成を図る

◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導(仙北市)※3月末見込みで記入

⑥派遣実績 計17施設／全17施設 178回	
回	・保育園：公立 3園(38回)
数	・幼保連携型認定こども園：私立 5園(105回)
	・その他の施設：(事業所内保育施設2か所(0回)、家庭的保育施設1か所(1回))
	・小学校：6校(34回)
訪	・園内研修支援(保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画)(目標のうち、8園 (35回))
問	・公開保育支援(指導・助言、公開保育研究会の運営・準備)(目標のうち、8園 (28回))
内	・個別相談(保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等)(目標のうち、8園 (24回))
容	・状況把握(保育の状況観察、園長等への聞き取り調査) (目標のうち、8園 (36回))
	・周知活動(広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明) (目標のうち、11園 (30回))
	・県と同行(指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化)(目標のうち、8園 (11回))
	・幼小接続(幼小接続に関する調査及び事業等) (目標のうち、6校 (67回))
理	・大仙市管内でのコロナ感染者拡大から園訪問を控えた時期もあり、令和3年度に準ずる訪問回数を目指していく。
由	・園の良い点、課題を分析し園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。
	・周知活動では、アドバイザーの活用法の例示をしながらアドバイザーの活用範囲を広げていくと共に、声をかけていなかった職員に意識的に声をかけていくように努める。
	・園内研修へのプロセスに関わることで、引き続き研修の充実を図る。

<保育実践>

- 保育の振り返りでは、遊びの盛り上がりや子どもの姿だけを捉えることも多くあったが「ねらい」に近づくためにどんな援助や手立てを心掛けたかを意識する保育者が増えてきた。
- 保育者は、保育の手立てや環境の構成を言葉で伝えることはできるが、指導案に具体的なことが記載されていないことが多い。
- ◇保育をイメージし具体的な記載を心がけることを支援していくとともに、自分で意識して行った手立て等を後で記録して残すことをアドバイスしていくことを心掛けていきたい。

<園内研修>

- 各園で保育参観後、KJ法を使って話し合う協議が多くなってきた。事前に出された付箋から話し合いのポイントを押さえることや時間配分を考える等、進行係や記録係に求められる力は大きい。昨年のファシリテーター研修会後から、各園で園内研修計画の見直しをしたり、研修での話し合いを深めていくための工夫をしたりする意識が高まっていることが感じられる。

- ◇公開保育をしてくれた保育者に、他の保育者からいろいろな視点からアドバイスが返っていくようなアドバイザーの支援を継続して心掛けていきたいと思う。

- ◇各園からアドバイザーに園内研修への参加の声をかけられることはうれしいことであるが、各園の研修日が重なってしまうことが多く参加できないこともあることが残念である。

各園との日程を調整しながら参加できるように努めたい。



KJ法で話し合いを深める

- 0歳児や1歳児を含めた全クラスを公開し子どもの姿から保育者の手立てや環境の構成を話し合う園が増えている。

- 0歳児の姿を見取り、話し合うことが難しいという声が多い。

その子の姿や行為だけでなく遊びの中で何を経験して楽しんでいるのか、どんなことに興味関心があるのか。育ちつつある姿や複数担任での保育の手立て等、保育を深めていくことができるようなアドバイスを心がけていきたいと思う。



0歳児 ～保育参観～

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

- ・ キャリアステージや課題に応じた研修、キャリアアップ研修の充実
- ・ 保育補助者研修会（同じ内容で２回）
- ・ ファシリテーター研修会（年３回）
- ・ 副園長等を仙北市保育研修会（保育補助研修会等）へ園の職員と一緒に参加を促し実施する
- ・ 乳幼児理解研修会
- ・ 幼児理解研修会
- ・ 実技研修会を実施

R4.4月19日（火）保育補助研修会（参加者24名）

保育補助職員15名・栄養士1名・副園長5名・主査1名・家庭援護係2名

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏

アンケート結果

① 満足 21名 ②やや満足 0名 ③やや不満 0名 ④不満 0名 ※記載なし 3名

<参加者の感想>

～保育補助職員～

- ・ 信頼関係の構築の話が印象的だった。
繰り返しあきらめず受容し、理解して傾聴を続ける中で信頼関係を築くことは、保育者同士でも同じことと思った。
- ・ 実際に動作を交えての講話はとてもわかりやすかった。子どもの目線になって大人と接した時は威圧感があり、子どもは怖いだろうと思えた。
また、ちょっとした体の向きで相手に与える印象が違う事に気づくことができた。



子どもの目線で考える

～副園長等～

- ・ 園がひとつのチームとして、様々な職種の先生達と同じ気持ちで新年度を迎えることができるように補助職員の研修が4月に行われることは大変有意義であると思われた。
- ・ 保育補助職員は、子どもへの対応だけでなく、入ったクラスや保育者の思い等様々なことを考えながら日々保育に寄り添っていると思うので、研修を受ける機会があることで自信を持ったり、安心できたりすることにつながると思う。保育補助研修会は、毎年続けてほしいと思う。

○保育補助の役割を園運営に活かしてほしいという願いから今年度も、継続して管理職の参加を募る。

保育補助職員のアンケートからは、昨年に続き研修の場があるということがとても有意義であったということや、保護者支援は、「目の前にいる子どもの姿が根本的な基本である」ということを実感したという声があった。

- 園側から保育補助職員のみならず、用務員や栄養士等保育に携わる職員以外は、なかなか研修を受ける機会がないという現実が見えてきた。

◇保育補助職員だけでなく、園にいるその他の職員も保育を進めていく上で欠かせない存在になっていることを考慮しながら、いろいろな視点からの研修を提供していきたいと思う。

R4.4月26日（火）保育補助研修会（参加者23名）

保育補助職員15名・園長2名・副園長5名・用務員1名

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏

アンケート結果

① 満足 20名 ②やや満足 1名 ③やや不満 0名 ④不満 0名 ※記載なし 2名

<参加者の感想>

～保育補助職員～

- ・保護者がわからないことや聞きたいことをなんでも聞ける関係性ができて初めて子育て支援といえるという話が心に響いた。保護者に対して支援したつもりにならないように心がけ「どうして言ったことをやらないんだろう」といった否定的な気持ちを持たずに、やることができない事情を思いやることができるようにしたいと思った。



コミュニケーションスキル

～園長等～

- ・保育補助の研修はありがたく思っている。保育補助職員は、実際には子どもにも保護者にも関わっている所以自信を持って取り組んでいくことができるよう研修の機会を増やしてもらえたらと思う。

○保育補助研修会は、第1回、2回目も同じ内容で研修を行った。

保護者支援・子育て支援のエピソードを交えた講師の講話は、保護者に寄り添うことがより具体的に伝わったと思われた。保護者との関係はその時の対応が上手く進んだとしても、ちょっとしたことで崩れてしまうこともある。

保護者への対応の基本を忘れないようにすることは、園や保育者、アドバイザーとの関わりにも通じることもあることを心に刻んでいきたいと思った。

◇園の運営体制で保育補助職員の勤務体制や担当する役割も違っている。

子どもの育ちを園の職員みんなで支えるという考えから、子どもの内面理解、発達理解等研修回数や内容を検討したいと思う。

R4.5月12日（木）ファシリテーター研修会①

講師 蛭田 一美 氏

<参加者の感想>

- ・KJ法での話し合いは、ゴールのイメージが意見を出し合えることを実感した。事前準備していきたい。
- ・協議前に付箋を出してもらい、その付箋が押さえるというやり方は、話し合いのゴールが明確になった。保育公開などの研修で実践してみたい。

○各園で実施されているKJ法の実践に基づく

（意見を出した時に、否定されずに取り上げられ、話し合いでは大事なことに実感できていた。



R4.5月20日（金）ファシリテーター研修会② 参加者14名

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

<参加者の感想>

- ・園内研修で誰がファシリテーターをやっても協議を進めることができるようになることや、園の職員の学びにつながるために事前準備で質問集を充実させていきたいと思った。
また、「ねらい」に結び付く効果的な質問を具体的に全職員に伝えたり、一緒に考えたりして質問を増やしていくことで協議を実践していきたい。
- 保育参観後、出された付箋から話し合いのポイントにすることや、時間配分を考えること等、進行や記録に求められる力は大きい。昨年のファシリテーター研修会から、各園で園内研修計画の見直しや取り組みについて深めていこうという意識が高まっていることが感じられる。
- 提供された講師の指導案から「子どもの姿・援助・環境の構成」を読み取って、出し合った付箋から話し合いを深められそうな付箋を見つけ、どんなところに視点をおいたらいいかをグループの話し合いにしたが、とても時間を要した。
子どもの姿や遊びのなかで経験している事の読み取りに、時間がかかってしまうことが伺えた。
- ◇公開保育をしてくれた保育者に、いろいろな視点からアドバイスが返っていくような支援を工夫していくこともアドバイザーに求められることだと思った。
- ◇ファシリテーターや記録者が出された付箋から話し合いのポイントを絞る時に、アドバイザーも一緒に支援できるように工夫していきたい。



事例：5歳児の読み取りをする

R4.6月6日（月）実技研修会 参加者 17名

講師 カワイ体育教室 三浦 正宏 氏

アンケート結果

① 満足 16名 ②やや満足 1名 ③やや不満 0名 ④ 不満 0名

※（時間があれば、もう少し実技をやりたかった）

<参加者の感想>

- ・縄がうまく回せない子にどう関わればよいか悩むことが多かったが、実際に自分が縄を持って実践してみることで体の使い方や縄の動きを体感できた。年齢で経験させたい体の動きを考えながら今後の指導に役立てたいと思った。
- ・遊びのアイディアをたくさん教えていただいたので日々の保育に取り入れ、みんなで楽しみながら体を動かすことができる場を作っていきたい。
- ・コロナ禍で散歩に出ることが少なかったり日常生活の中でも歩くことが少なかったりしているため、今の子ども達は浮き指が多いということがとても印象的であった。
歩くことが一番の運動であり歩くことでバランス感覚を養い転倒も少なくなることを改めて学ぶことができた。
- コロナ禍ではあったが、子ども達に指導していることを思い浮かべ、他の保育者と力を合わせたり実践したりすることで、保育者自身が楽しみながら体を動かすことが実感できたようだ。
- コロナ禍で実技研修がなかなか実施されずキャリアアップにつながる実技研修も少ないようだ。
仙北市でも実技研修を希望する声が多くありコロナ禍の中で場所、内容、時間等を検討する時に課題も大きい。



マット遊びに挑戦！

R4.10月4日（火）ファシリテーター研修会③ 参加者20名 公開園（副園長・担任 6名参加）
講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

～公開園保育者の感想～

- ・公開前の指導案に他園の保育者から質問をされることによって気づかされたことや、より深く考えさせられたことがあり当日の保育の見通しやイメージを見直す良い機会になった。同じ遊びをしていても一人一人のゴールや目的に違いがあるという視点も頭に入れ、個々の理解に努めながら保育に臨みたいと思った。
- ・日案を他園の先生達に見てもらうことで、自分では気づかなかった環境の構成や援助について考えるキッカケとなった。いつも接している子ども達なので多少省略して書いてしまうことが多かったが、細かいところまでしっかり記載することで自分の保育が明確になってくることが大事なことだと感じた。

<参加者の感想>

- ・指導計画を見ながら保育をイメージして協議ができたので「自分だったら」と置き換えて考えたり、別の意見に触れたりできたことがとても学びになった。
指導計画を作成する時に「ねらい」に迫るために自分はどこを大切にしているのか自分自身を振り返る研修になった。



指導案を読み取り、保育者へ質問をする参加者

- ・今回の研修会では、指導案や日案の読み取りについて学ぶことができた。

実際の保育を見る前に子どもの姿を想像したり、保育者の思いや意図を捉えたりすることでポイントを押さえ参観することができると感じた。

R4.8月4日（木）から延期 R4.10月19日（水） 乳児保育研修会実施参加者20名
（園長1名 副園長3名参加）

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部真理 氏

<参加者の感想>

- ・演習：他の保育者の意見を聞いたり話し合ったりすることで、子どもの姿からの読み取りを深めていくことや、普段何気なく見ている姿も学びや育ちにつながっていくことを意識することができた。
- ・SOAPの視点を理解し納得するまでに時間を要し、指導計画を作成することは難しいと思ったが、自分の読み取ったことを他の保育者の言葉を聞いて考えることで徐々にSOAPの意味を理解できた。今までの指導計画作成では、子どもの姿だけを記載することが多くそこに育っている事や楽しんでいることを書いていなかった。子どもの姿から、読み取ったことを記載することで「ねらい」につながっていくことが大事なことだと思った。

○SOAPの視点で子ども達を見るという講話が保育者に響き、「遊びの中で何を学んでいるか」「何を経験しているか」等、意識して考えてみるのが大事ということが実感できたようである。

- 0, 1歳児の遊びの姿を「育みたい資質能力」で捉えることが難しいと思っている保育者もいる。子どもの姿や行為に目がいき、育ちの部分を深く考えないでしまうことも多くなっている。

◇指導計画を完成しなければという気持ち強いのか、紙面を埋めることや文言にこだわる人が多いと感じる時がある。

遊びのその時の場面の子どもの姿や保育者自身の新たな発見を書き加えていくような指導計画でもいいのではないかという案も提示しながら、保育者自身が保育を楽しんで記録できるようなアドバイスを考えていきたい。

保育者の子どもの姿の捉えで保育の援助や環境の



子ども達に保育の中でどんなふうに、物や事・自然と出会わせる？（真剣に考える！）

構成等が日々変化していくことも一緒に考えていきたいと思う。

仙北市保育研修会（男性）

① R4.7月26日（火）参加3名 ②R4.9月2日（金）参加4名 ③R5.3月24日（金）

○園に配置されている男性保育士は、それぞれ1名、2名なので男性保育者同士で話す機会がないということから男性保育士の研修会を開催した。

過去には離職した人もおり、男性保育者同士で離職を防ぎたいという強い思いがあることを知ることができた。

◇日々の保育や思いを話し合える場の提供も大事だと思っていたが「保育を見合う機会がほしい」「指導案について話し合いたい」等男性保育者から出される希望も多く聞かれた。

出された意見等の思いに添いながら内容を工夫していきたいと思う。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

（１）部局間連携（教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課）

- ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（公開研究会を開催）
- ・幼小連携に関する研修会

R4.10月11日（火）就学前・小学校仙北市合同研修会

午前 にこにこ子ども園公開保育

午後 協議・講話 （西明寺小学校）

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者 64名（小学校23名 園 29名 関係者12名）

<グループ協議についての感想>

～園参加者～

- ・協議の中で、保育者が大切にしていることや、育てたいと思っていることが学校での基礎になっているという話を小学校の先生達から直接話された。自信を持って保育をしていきたいと思った。
- ・小学校の先生達と協議したことにより、園での今の姿が学校での〇〇な姿につながるというような長期的な見通しを持つことができた。園ではより「10の姿」を意識したねらいや指導計画を子どもの姿と照らし合わせながら立てていくようにしたい。

～小学校参加者～

- ・子ども達の遊びの中でねらうべき姿を念頭に置き、声をかけている保育者の姿に頭が下がる思いだった。
 - ・5歳児には「協力する」「力を合わせる」姿を子ども同士でどのように関わらせるのかとても難しいことだと思った。
- 子ども達の遊びで何を味わわせたいのか、場の工夫はどうするのか、保育者の言葉かけもたくさん必要なことがわかった。

園の先生達と協議ができて有意義な時間だった

- ・保育はぼんやりした視点で参観させてもらったが、協議の中ではポイントをしばった話し合いになったことがよかった。5歳児であればという具体的な姿が明確になり考えやすかった。
- ・園の先生達は子どもの力を伸ばし自信を持たせるために個々に対する言葉かけをとても大切にされていることを知り「自分はどうだろう？一人一人をきちんと見取っているだろうか」と振り返る機会になった。

○参加人数が多かったことはうれしいことであったが、コロナ禍にあり開催可否の最終判断が難しかった。検温、手洗い、換気等を心がけながら予定通り実施できたことが合同研修会の大きな成果で



<園、小学校グループ協議>

あった。また、合同研修会を通して小学校との相互理解が深まり教育委員会との協力体制も良い方向で進めていきたいと思う。

<幼小交流授業参観>

R4.4月21日(木) 神代小学校 スタートカリキュラムに合わせた1学年授業参観・協議
はなさき仙北神代こども園3名、アドバイザー

○3月に話し合われた子どもの姿をスタートカリキュラムに合わせて4月の授業参観や協議ができることは、小学校と園が子ども達の育ちをつなげていこうと意識していることが感じられ有意義な時間になった。このような取り組みを各園・各小学校にいろいろな形で紹介できたらと思った。



1年生の授業参観

R4.6月15日(水) 神代こども園 5歳児保育参観・協議
神代小学校3名
神代こども園7名、アドバイザー

R4.9月8日(木) 西明寺小学校 1学年国語
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 栗津 明子 氏
授業参観・協議 にこにここども園3名、アドバイザー参加

○午後の協議でこども園の職員から小学校の協議の仕方を見て、自分達が接している子ども達と重なり、日々の保育を振り返りながら保育していくことが大事であるという感想が出された。双方での共通点や相違点を明確にしながら子どもの育ちをつなげていくような話し合いは大事であり話し合いに参加することが有意義なことであることが実感できたようだ。

R4.9月13日(火) 指導主事訪問 桧木内小学校1年(おひさま学級)
秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 大河 康博 氏
授業参観・協議
はなさき仙北ひのきないこども園3名、アドバイザー参加

<小学校保育体験>

R5.1月13日(金) 角館小学校2年担任
場所(角館こども園 5歳児)

○保育体験をした教師から、実際の遊びに入って友達のやりとりができていたり周りの友達の良さを認め合っている姿を感じることができ、子どもの良さを考える時間になったという貴重な感想があった。保育や授業の時間に違いがあることを双方で理解できたことや、子ども一人一人に対していろいろな支援を考えていることを確認できたことは有意義な時間になった。

◇保育体験・授業体験を通して話し合えることを各学区にも反映されていくように小学校との連携をアドバイザーの立場でも考えていきたいと思う。

<教育委員会主催 研究会>

R4.11月2日(水) 仙北市教育研究会研究大会
研究授業 角館小学校、白岩小学校、角館中学校
講演会「ふるさとキャリア教育の12年～教育のイーハトーヴを求めて～」

講師 大館市教育委員会教育長 高橋 善之 氏

参加者：市内小中学校全職員、教育委員会関係者、園7名、アドバイザー

- 幼小連携の取り組みが一部の教師や保育者に終わらず、小学校や園全体の取り組みになることが重要と思われる。

R5.2月28日（火） 仙北市教育研究会研究大会について（オンライン）

会場 仙北市立西明寺小学校

参加者：市内小中学校評議員、教育長、園7名、アドバイザー
教育委員会関係者、西明寺小学校教頭

※仙北市教育研究会研究大会について趣旨説明を聞く。

「言語活動の充実」を柱に市内全ての小・中学校が研究への方向性を同じくし本大会の授業参観・授業研究を通してテーマに関わる成果と課題を共有しその育成につなげることを目的としているが、そのベースである子どもの育ちを園も一緒に考えていってほしいという視点を教育長から聞くことができた。はじめは学区ごとに、園と小学校の話合いが重点になると思われるが教育委員会との連携体制を図りながら推進していきたいと思う。

- ・仙北市子ども家庭総合拠点（教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園）
＜就学前児童に関する支援機関連携会議＞

R4. 4月28日（木） 子育て推進課・北浦教育文化研究所・市内4園
R4. 7月13日（水） 延期
R4. 7月14日（木） 延期
R4. 10月26日（水） 子育て推進課・市内4園
R4. 10月31日（月） 子育て推進課・市内4園
R5. 1月27日（金） 子育て推進課・北浦教育文化研究所・市内8園

＜どれみの会＞・仙北市で行う月2回の就学前児童の療育訓練事業である（親子一緒に参加）

通年 講師 宮川 貴子 氏

年2回（音楽療法） 講師 日沼 郁子 氏

R4(5/11. 5/30. 6/13. 6/29. 7/7. 7/25. 8/10. 8/29. 9/12. 9/28. 10/12. 10/27. 11/9. 12/5. 12/21)

R5. (1/11. 2/9. 2/20. 3/6. 3/27)

7/7～8/29 中止 9/28 中止 1/30 中止

※アドバイザーが関わったどれみの会

5月11日（水）5月30日（月）11月24日（木）

2月9日（木）2月20日（月）3月6日（月）3月27日（月）

R5.2月20日（月）保護者学習会 講話「我が子に寄り添う・支える」

～心の根っこを育てよう～

教育・保育アドバイザー 佐々木 真貴子

（どれみの会）

○参加した親子の様子や講師の助言をアドバイザーが園訪問を通して伝えることで、参加の子を中心とした訪問や保育参観を通して、担任や特別支援コーディネーターと一緒に支援の方法を話し合うことができたり情報共有できたりしている。

- コロナ禍にあり「どれみの会」が中止になった日も多かった。どれみの会は、保護者の就労日が関連しての参加になるので講師や保護者の日程調整が難しい。

●アドバイザーの日程調節ができず、アドバイザーが「どれみの会」に参加できないことも多かった。

支援機関連携会議、課内での話し合いを参考にしながら、園に伝えることを工夫していきたいと思う。

◇「どれみの会」の保護者への講話を担当したことで、0～5歳児の育ちを理解する大切さや園の遊びが学びにつながっていることを保護者へどのように発信していくかの大事さを改めて痛感した。保護者が悩んでいることをどのように受け止めてあげたり、聞いてあげたりするかを考えながら努めていきたい。

<巡回相談>

令和4年度インクルーシブ教育システム推進事業「専門家・支援チーム」における巡回相談

R4.9月15日（木） はなさき仙北ひのきないこども園
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 朝倉 紀子 氏
秋田県立大曲支援せんぼく校 教諭 佐々木 奈織 氏

<特別支援委員会>

R5.1月12日（木） はなさき仙北角館こども園
秋田県立大曲支援せんぼく校 副校長 佐々木 義範 氏
秋田県立大曲支援せんぼく校 教諭 佐々木 奈織 氏
講話 「難儀している子どもたちとの関りを通して考えたこと」
～支援の具体と保護者との連携～
講師 秋田県立大曲支援せんぼく校 副校長 佐々木 義範 氏
R5.1月19日（木） 令和4年度母子保健関係者研修会（主催 保健課）
講演 「基本的な発達障害」と「保護者支援」
講師 秋田県立医療療育センター小児科メンタルヘルス外来医師
渡部 泰弘 氏

（５）「県との連携体制の充実」

・指導主事訪問に同行する

要請訪問

R4.6月21日（火） 白岩小百合保育園
R4.8月23日（火） 角館西保育園 小学校5名（校長・教諭） 保育参観
R4.8月31日（水） 白岩小百合保育園 小学校1名（校長） 園6名 保育参観、協議
R4.11月1日（木） 中川保育園 小学校2名（校長・教諭） 園6名 保育参観、協議
R4.6月16日（木） にこにここども園 小学校1名（教頭） 保育参観のみ

・幼保連携型認定こども園訪問

R4.6月29日（水） ひのきないこども園 小学校2名（校長・教諭） 校長協議参加
R4.9月1日（木） にこにここども園 小学校1名（教頭） 園5名 小（保育参観のみ）

R4.10月27日（木） だしのこ園

R4.11月15日（火） 神代こども園 小学校3名（校長・教頭・教諭） 教頭・教諭協議参加

R4.11月17日（木） 角館こども園 小学校2名、園6名 小（保育参観のみ）

○コロナ禍になってから、他園の保育を参観することがなかなか実施されない状態にあった。他園の保育者を受け入れた園からは、自分達が気づけなかった視点から意見を出してくれ大変有意義な学びにつながったという感想が多く聞かれた。

◇指導主事訪問に同行した際に、保育に対する保育者の思いを引き出す、保育者の意図を知るなど指導主事や幼保指導員からの声かけの学びが大きい。指導されたことを事後に園と一緒に考えることができる機会にも恵まれていることもあるので、保育者の意欲に結び付いていくような関りをこれからも考えていきたい。

・県の幼児教育推進協議会

- ① 園長等運営管理協議会（4月27日）Web研修参加
- ② 教頭・主任等研修会（5月10日）
- ③ 新規採用者研修（7月20日）参加
- ④ 就学・小学校等南地区合同研修会（7月27日）Web研修参加
- ⑤ 就学前教育推進協議会（11月25日）Web研修参加

○Web研修を同じ場所で受けることで、講話の中で感じたことや、普段の保育で悩みに思っていること等短い時間ではあるが話をすることができる利点があった。

・アドバイザー連絡協議会へ参加（年5回予定）

- ① 4月22日 Web研修参加 ②6月24日 ③8月25日 ④10月25日⑤1月24日

・他市アドバイザーに学ぶ

- ・R4. 7月29日（金） 潟上市立若竹幼児教育センター（潟上市）
- ・R4. 10月20日（木） 男鹿市立脇本保育園（男鹿市）

◇潟上市、男鹿市アドバイザーに学ぶ会に参加

仙北市実施日

- ・R4. 9月12日（月） 角館こども園（仙北市）

○昨年は、コロナ禍の中アドバイザーに学ぶ研修会がほとんど中止だったので、参集型で研修会ができたことが有意義であった。他市のアドバイザーの話を聞くことでより多面的に柔軟に支援していく大切さを実感できた。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題

＜保育の資質向上に向けて＞

- 外部研修会で学んだ内容を保育や園内研修に活かそうという意識が強くなってきた。

学んだことを保育実践でどのように活かしていくのか、その内容が自園でどのように必要なのかを考えることが大事であることを助言しているがそれに伴い仙北市で行う研修内容もより精選していきたいと考える。

- 園内研修を深めるために中間評価をし、さらに園評価で振り返えることが大事であるという意識が強くなってきた。

園内研修で出された意見が深められるように研修の持ち方をより一層保育者と考えていきたい。

- 保育公開や園内での協議を終えた後、アドバイザーが日を改めて訪問し保育の振り返りに参加している。当日の保育の流れをアドバイザーが作成した子どもの姿や写真を提示することで、保育者から遊びの場面での手立てや援助を言葉で引き出し一緒に考える時間が出来てきた。

保育者が遊びの場面で子どもに関わった意識やその時の関わった思いが明確になることも多くなっていることを捉え継続していきたい支援方法のひとつとしたい。

- 「毎週同じような子どもの姿の記述やねらいになってしまう、指導計画の作成が難しい」という声が毎年の課題になっている。文言の使い方や指導計画を完成させることに気持ちが大きいことが難しいという要因のひとつと受け止め、子どもの姿を書くだけでなく保育者が意図している事や遊びで経験していることを記録に残すような助言に努めている。また、完成形でなくてもその時の子どもの姿や、足りなかった手立てを書き足していくことで指導計画を作成していくことも保育の資質向上につながっていく意識として高めていきたい。

- 園の管理職が指導計画を見て、日々の保育と重ね合わせて声をかけていくような体制を推進しながら保育者の良い面を認めてあげることや保育者の自信に繋がっていくような言葉かけをしていく支援を継続していくように努めている。方法のひとつとして管理職の研修会を計画しているがなかなか実施できていない。

＜幼小の連携について＞

- 保育参観や授業参観で終えるのではなく、午後の話し合いの協議へも園や小学校の職員の参加ができたことは、大きな成果である。コロナ禍にあり、取り組みがなかなか進まない学区もあるが子どもの育ちについて話し合うことが大事なことで意識が高くなってきた。

＜事業の取り組みについて＞

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や育みたい資質能力の視点から話し合うことが、園と小学校でなかなか浸透していないところが多い。

幼小で話し合う時間調整の難しさ、人事異動による取り組みの違い等課題や成果を明らかにしながら、教育委員会と子育て推進課の行政間でも連携体制を取りながら進めていきたい。

- 園からの要請や声をかけられることで複数回の訪問ができている園もあるが、園の事情に合わせてなかなか訪問できていない園もある。園のニーズを把握しどのような支援が必要か明確にしていく必要がある。

